



「祈りと瞑想の風景」

青森県立美術館 コレクション展

青森県立美術館の所蔵作品を紹介するコレクション展 2024-2 が4月13日(日)まで、同館で開かれています。棟方志功、奈良美智など通年展示作品に加え、今回は特集「祈りと瞑想の風景」と銘打って斎藤真一、阿部合成、田澤茂、野坂徹夫の油彩と水彩、木彫を展示。雪に閉ざされた静かな時間をめぐり、味わいある作品群が内面への旅にいきなしてくれます。

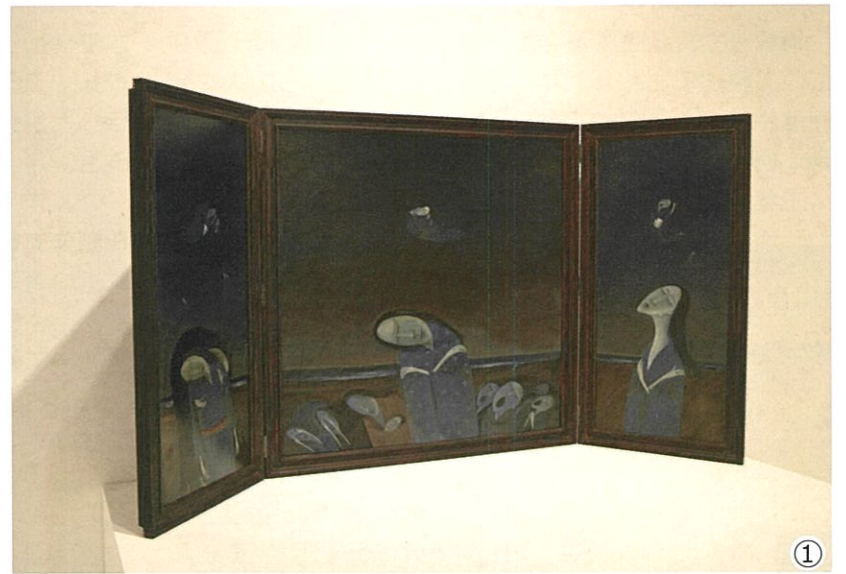
斎藤真一(1922-1994)は岡山県に生まれ、パリ留学時に知り合った藤田嗣治の勧めで東北・北陸を旅し、盲目の旅芸人「瞽女」というテーマに出会います。西洋の祭壇画の様式で制作した「風・津軽じょんから」(写真①)をはじめ、土俗的なモチーフとキリスト教美術の形式を融合させた油彩が、異世界の空気を伝えてくるようです。

青森市浪岡生まれの阿部合成(1910-1972)は、シベリア抑留体験とメキシコ滞在中に触れた民俗・宗教が

生んだ、苦しみや鎮魂を連想させる作品群(写真②)が並びます。また、隣接する田舎館村生まれの田澤茂(1925-2014)は、無数の地蔵を描いた作品などが目を引きま。中でも、抽象化された人々の頭上に直線的な折り鶴が舞う油彩「ヒロシマの夏」(写真③)は、ガザやウクライナの戦火を連想させます。

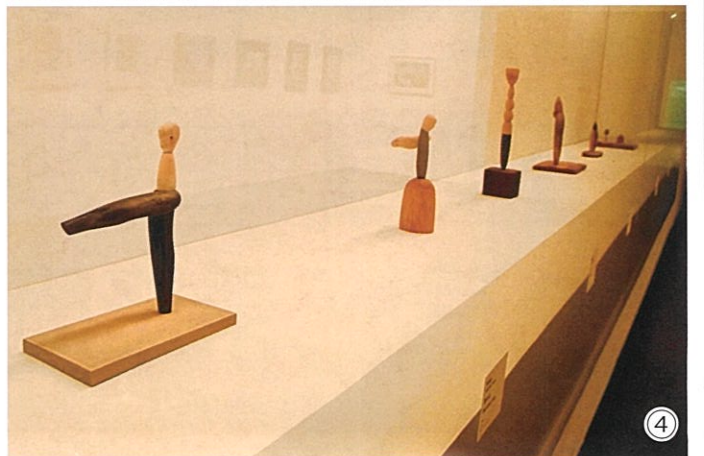
そして野辺地町生まれの野坂徹夫(1949-)の作品は、流木を人物のように仕上げた木彫(写真④)と、同じフォルムを描いた水彩画が対になって紹介されています。作者の人柄が柔和で温かな色合いと形にじんんでいるようです。

担当の池田亨美術統括監は「厳しい冬は祈りの時期であるとともに、次の季節に希望を抱く時期。青森にちなんだ画家たちの、祈り



①

の姿を感じ取ってもらえれば」と話しています。期間中、3月24日(月)は休館。観覧料は一般700円、大学生400円、18歳未満と高校生は無料です。



④



②



③

えが「描く人、安彦良和」 4月19日スタート

40年以上にわたり人気を集めるアニメ「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザイナー兼アニメーションディレクターなどを務めた安彦良和の回顧展「えが描く人、安彦良和」が4月19日(土)から6月29日(日)まで、青森県立美術館で開かれます。

安彦は1947年、北海道に生まれ、1966年に弘前大学に入学しました。当時、盛んだった学生運動に関わったことで退学となり、上京後にアニメの世界に深く入っていきます。

今回の回顧展は、アニメ制作時の資料やカラーイラスト、漫画原稿など1,000点以



上を展示、半世紀に及ぶ安彦の足跡をたどります。担当の奥脇嵩大学芸員は「学生運動を通じてさまざまな人や組織に触れながら、誰に対しても平静な視線と心を保ち続けたことが、後の創作に大きな影響を及ぼした印象がある。弘前大学時代の資料も多数、紹介し、彼の『原点』を確かめられる展示にしたい」と抱負を語っています。

観覧料は一般1,700円、大学生1,000円、18歳以下および高校生は無料。期間中、4月28日(月)、5月12日(月)・26日(月)、6月9日(月)・23日(月)は休館です。



世界遺産遺跡群・出土品にちなんだ工芸品、グッズ紹介

あおもり縄文ステーションじょもじょも

「あおもり縄文ステーションじょもじょも」(JR青森駅東口ビル4階)で5月6日(火・休)まで、企画展「あつまれ現代のJOMON」が開かれています。青森県内にある、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産8遺跡と出土品をモチーフにした伝統工芸品やグッズを展示しているほか、縄文遺跡群にちなんだ建築物やオブジェクトをパネルで紹介しています。

三内丸山遺跡で出土した大型板状土偶をデザインしたクッキー、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館に展示されている国宝・合掌土偶をかたどった焼き菓子やミニ鉄偶、シールなど、会場には多彩なアイテムが並んでい

ます。ちょっと変わったところでは、菓子箱に埋もれた土偶型のクッキーを掘り出して「発掘気分」を味わえるセットや、断面が土偶の形をしたパスタも。

このほか、建物に大型板状土偶をデザインした三内丸山交番のパネル、青森県の委託により日本航空が運航した、縄文遺跡群に関するイラストをあしらった「JAL



JOMON ジェット」の模型などが目を引きま。 「じょもじょも」は午前10時から午後7時(4月26日(土)～5月6日(火・休)は午後8時)まで、無料で観覧できます。

新しい流れをつくりたい

新隊長・工藤桜子さん

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑥4

青森県立青森西高等学校の「青西おもてなし隊」隊長に、工藤桜子さん（2年）が就任しました。50人を超える生徒のトップに立ち、「楽しみながらおもてなし活動に携わっていきたい」と意欲を語っています。

工藤さんは青森市出身。おもてなし隊には友人に誘わ

れて参加しました。活動のデビューは青森港に入港するクルーズ船の歓迎でした。「外国の人と話すのは難しそう…と緊張していたのですが、いざ、話し始めるとテンションが上がって楽しく会話できた」と振り返ります。

これまで最も印象に残っている活動は「地域ねぶた」の制作支援だそうです。おもてなし隊は2024年、高校に近い青森市の「石江江渡下町会」の地域ねぶた作成を支援し、生徒たちは約2カ月にわたって連日、和紙を枠組みに張り付ける作業に従事しました。

「出来上がったねぶたの運行にも出陣し、青森市のまちなかや学校の周辺で太鼓の台車を引っ張りました。見ている人たちとの距離感がとても近くて感動がありました」

当面の目標は、おもてなし隊が開設しているYouTubeチャンネルの動画をもっと頻繁に更新していくことといいます。コロナ禍の中、デジタルスキルを身に付けた世代とあって「もっとメディアを活用して、私たちの活動をPRできないか」と目を輝かせます。

「おもてなし隊に入らなければ、ここまでボランティ



ア活動に関わることもなかったと思う。新しい流れをどんどん生み出していくことに挑戦したい」と張り切っています。



顧問の成田由希教諭⑤、清野耕司教諭⑥と工藤さん

津軽半島 乗合タクシー「わんタク定時便」 4月から乗降箇所 29カ所追加

大雨被害により2022年8月から運休しているJR津軽線（蟹田～三厩間）の旅客輸送を代替している乗合タ

クシー「わんタク」について、JR東日本は4月1日から「わんタク定時便」の乗降箇所を29カ所追加します。

蟹田～三厩間の旅客輸送は、代行バス8便（下り5便・上り3便、土休日は3往復）に加え、定時定路線型の乗合タクシー「わんタク定時便」4往復、そしてデマンド型の「わんタクフリー便」が担っています。

「わんタク定時便」は路線とダイヤが決まっており、時刻表に記載された駅・乗降箇所に必ず停車するタイプです。定員があるため、確実に乗車するには事前予約が安心です。また、ルート上のどこでも乗降できますが、時刻表にない場所で乗車する場合には、事前予約が必要です。

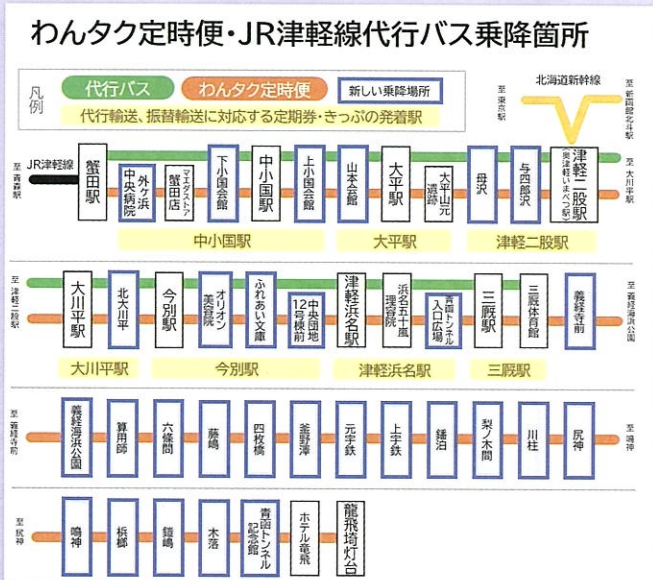
「わんタクフリー便」は、エリア内であればどこでも乗車・降車でき、必ず事前予約が要ります。

どちらの「わんタク」も1回500円（小学生以下



300円）の料金で、津軽半島北部の蟹田駅から龍飛埼灯台の間で乗降できます。現金のほか、Suicaやクレジットカード、QRコード決済も使えます。予約は、電話の場合は午前8時から午後8時まで、050-3135-2258で受け付けます（乗車希望便の60分前まで）。WEB予約の場合は [kakkhttps://weborder2.dennokotsu.jp/form/wando](https://weborder2.dennokotsu.jp/form/wando)（二次元コード参照）で、24時間対応ですが、乗車前日までの受付となります。

3月15日のJR津軽線（青森～蟹田間）のダイヤ改正に合わせて、「わんタク定時便」と「代行バス」はいずれも運行時刻を変更しました。4月1日にはさらに「わんタク定時便」の乗降箇所が29カ所追加されます。また、代行バスも乗降箇所が8カ所追加されて、利便性が向上します。



三内丸山遺跡センター

見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）
お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>

縄文 ⇄ 芸術



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月26日～1月1日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合あり
観覧料 一般700円（560円）／大学生400円（320円）／18歳未満および高校生以下 無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。
お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）18分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約30分
→ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント
＜ネット情報＞
Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部
櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

